

●横浜市役所

「市制町村制」にもとづき、明治三十二年（一八八九）四月一日、横浜に市制が施行された。二代目市庁舎は、現在とほぼ同じ位置に、明治四十四年七月、開庁した。

震災当日、大震動にもかかわらず、市庁舎は倒壊を免れた。庁舎内の職員が、「臨時救護所」の張り紙を出し、市民の救護に当たり、庁内に避難した市民は数百人に上った。しかし、火災が迫ってきたため、横浜公園に移動し、「市役所假事務所」とした。三日には仮庁舎を桜木町の中央職業紹介所に設けて、本格的な救護活動を開始した。一日、同所屋上で、平沼亮三議長のもとに復興市会を開催、渡辺勝三郎市長は大横浜建設の覚悟を述べた。

大正一四年二月一六日、現在地に再移転、現庁舎は、昭和三四年（一九五九）に建設され、今日に至る。

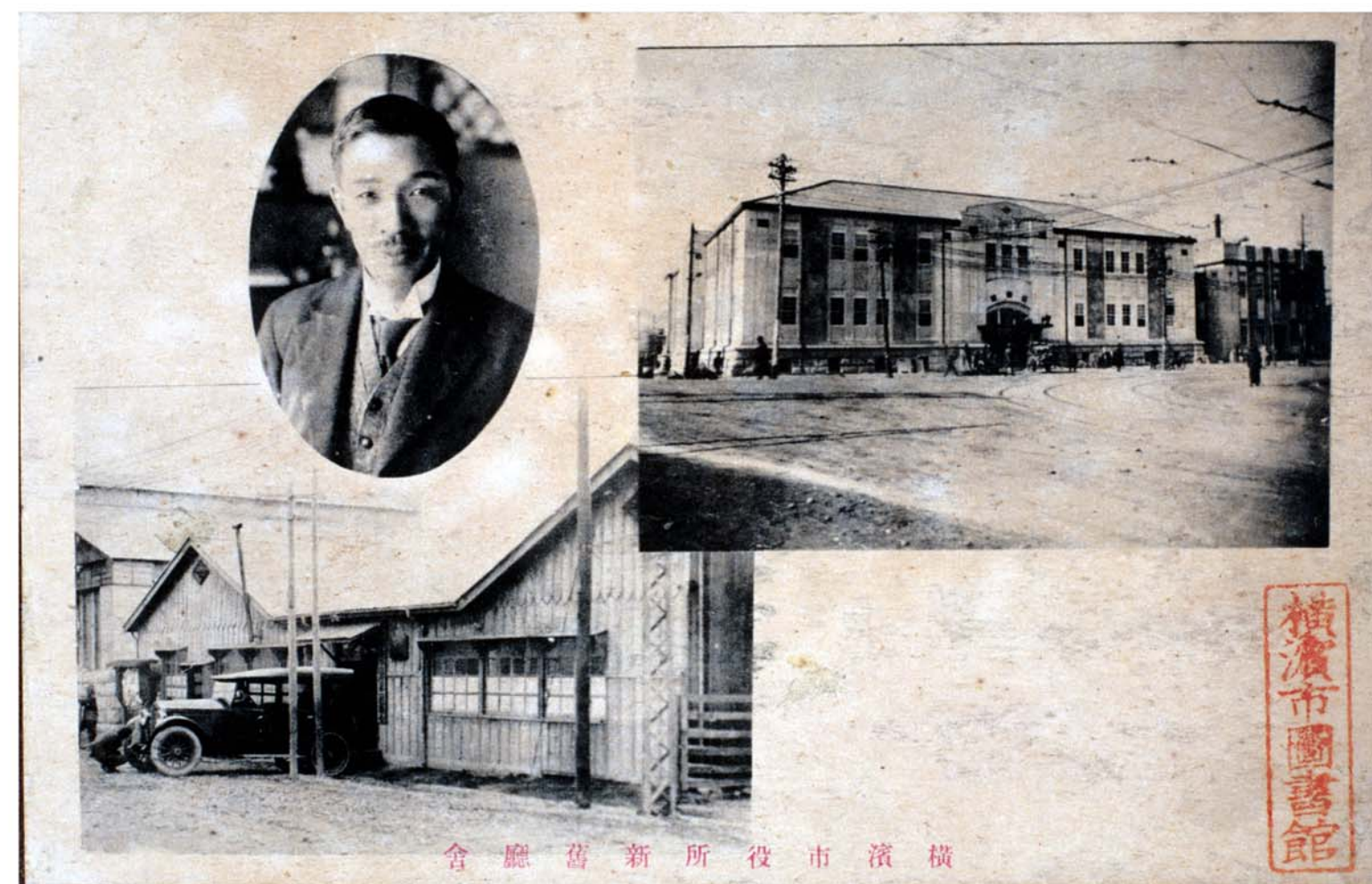


震災前：絵葉書「横浜市役所 Yokohama City office」



震災：絵葉書「大正十二年九月一日横浜市大震災惨状 市役所」

Looking Yokohamashi office Yokohama of September 1 1923」



横浜市役所新舊舎

震災後：桜木町の仮庁舎（左下），現在地に竣工した本庁舎（右上），渡辺勝三郎市長（円内）

『大正十四年二月二十日 庁舎落成記念絵葉書』（横浜市役所），五枚組のうち一枚、『横浜震災被害写真帖』所収